

知的障害のある生徒のキャリア教育の視点を取り入れた 生活単元学習の授業づくり

—— キャリアポイントを定めるシートの作成と活用を通して ——

長期研修員 田中 宏美

《研究の概要》

本研究は、生活単元学習において、生徒が、必要な支援を受けて、自分で考えたり選択したりしながら主体的に活動し、自立につながる力を身に付けることを目指した研究である。生活単元学習での一人一人の学習成果をキャリア教育の視点を取り入れて積み上げ、特性やよさを可視化して自立に関わる実態を明らかにすることを旨とする「積み上げシート」と、授業の中に「キャリアポイント（キャリア教育の視点で特に重視したい活動）」を定め、自立に向けて育てたい力と支援を設定して単元のねらいの達成を目指す「共有シート」を活用した授業づくりを提案した。

積み上げシートで明らかにした実態を基に、共有シートでキャリアポイントを定めることで、授業のねらいを明確にし、実態に応じた支援を設定できた。これにより、生徒が生活単元学習のねらいを達成し、自立につながる力を身に付けることができることを明らかにした。

キーワード 【特別支援教育 生活単元学習 キャリア教育 実態把握 目標設定】

群馬県総合教育センター

分類記号：I 0 1 - 0 4 令和3年度 276集

I 主題設定の理由

生活単元学習の授業において実態差のある児童生徒が集団で活動する中で、一人一人のよさを生かすことや個に応じた力を身に付けさせることに難しさを感じている教師は多い。生活単元学習は、『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月）において「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するもの」と示されている。児童生徒の実態に応じて広範囲の内容を扱うことができるよさがある反面、実態に応じた学習設定や育てたい力の設定が難しいことが課題でもある。このような生活単元学習の課題を解決するために、本研究では、自立を目指すという点で共通しているキャリア教育の考え方に着目した。

平成23年の中央教育審議会答申において、キャリア教育とは「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」、キャリア発達とは「社会の中で自分らしい生き方を実現していく過程」であると定義され、障害のある児童生徒に対しては、個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で、適切にキャリア教育を行うことが重要であると示された。それ以降、学校教育においてキャリア教育が浸透し、『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示）において「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう」キャリア教育の充実を図ることが示された。本県においては、全ての特別支援学校でキャリア教育全体計画が作成され、活用についての研究が進められてきた。『第2期群馬県特別支援教育推進計画』においては、全ての子供が自立・社会参加するために、引き続き一人一人の卒業後のニーズに合ったキャリア教育を実践し、卒業後も学び成長し続けられるよう研究を推進する必要性が唱えられている。一方でキャリア教育の課題として『特別支援学校学習指導要領解説総則編』（平成30年1月）において「指導場が曖昧」であることや「狭義の意味での進路指導と混同」され「体系的に行われてこなかった」ことが示された。このような課題を解決し、キャリア教育の充実を図るために、日々の授業の中にキャリア教育の視点を取り入れていくことが有効であると考えた。生活単元学習にキャリア教育の視点を取り入れることで、実態に応じた学習設定や育てたい力の設定が難しいという生活単元学習の課題が解決されると共に、指導場が曖昧になりやすく、体系的に指導されていないというキャリア教育の課題解決につながり、より効果的に学習を行うことができると考えた。

さらに本研究では、特別支援学校中学部の生活単元学習の授業づくりにおいて、生徒の特性やよさを可視化して自立に関わる実態を明らかにすることを目指す積み上げシートと、授業の中にキャリアポイント（キャリア教育の視点で特に重視したい活動）を定め、自立に向けて育てたい力と支援を設定して単元のねらいの達成を目指す共有シートを活用してキャリア教育の視点を取り入れることを提案し、生徒が生活単元学習のねらいを達成し、自立につながる力を身に付けることを目指したいと考え、本研究主題を設定した。

II 研究のねらい

生活単元学習の授業づくりによりキャリア教育の視点を取り入れ、生徒の特性やよさを可視化して自立に関わる実態を明らかにし、キャリアポイントを定め、自立に向けて育てたい力と支援を設定して指導を行うことで、生徒が生活単元学習のねらいを達成し、自立につながる力を身に付けられることを明らかにする。

III 研究仮説（見通し）

1 教師が、キャリア教育の視点で自立に関わる実態を明らかにする。

積み上げシートを活用し、生活単元学習の学習成果の蓄積から、生徒の特性やよさ、発達の方向性

等自立に関わる実態を明らかにすることができる。

2 単元構想において、生徒が自分で考えたり、選択したりする活動を設定する。

共有シートを活用して、学習集団全体に対して生徒が自己決定する機会をつくり、主体的な活動を促すことができる。

3 一単位時間の授業構想においてキャリアポイント（キャリア教育の視点で特に重視したい活動）を定める。

明らかにした実態を基に教師が生徒一人一人のキャリアポイントを定めることで、授業のねらいを明確にできる。

4 キャリアポイントにおいて、育てたい力と支援を設定して指導者間で共有する。

教師が、一人一人の自立に向けて育てたい力と支援を共有して生徒と関わることで、生徒の自立につながる力を育てることができる。

5 次の学習につなげる。

単元終了後に、教師が各時間のキャリアポイントを中心に生徒の活動を振り返り、積み上げシートを活用して学習成果を基礎的・汎用的能力に沿って積み上げることで、次の学習に向けて一人一人の実態をより明らかにし、生徒が自立につながる力を身に付けることができる授業づくりを深めていく。

IV 研究の内容

1 文言の定義

(1) キャリア教育の視点を取り入れた生活単元学習の授業とは

生活単元学習において、教師が一人一人の生徒の自立に関わる実態を明らかにし、自立に向けて育てたい力と支援を設定することで、生徒が自分で考えたり選択したりしながら主体的に活動し自立につながる力を身に付けることができる授業と考える。本研究では、キャリア教育の視点を、キャリアポイントを定めることで取り入れ、教師が一単位時間の授業のねらいを明確にして育てたい力と支援を設定して生徒と関わることで、単元のねらいを達成し、自立に関わる力を身に付けることを目指す。キャリアポイントを定める手立てとして、積み上げシートと共有シートを作成し、実態把握と授業づくりで活用する。

(2) キャリアポイントとは

生活単元学習に、キャリア教育の視点を取り入れるために本研究で考えたものであり、キャリア教育の視点で特に重視したい活動とする。教師が、一単位時間に一人一つずつ、キャリアポイント（キャリア教育の視点で特に重視したい活動）を定めることで、授業のねらいを明確にし、キャリアポイントにおいて育てたい力と支援を設定して生徒と関わることで、生徒が自分の特性やよさを発揮する場面をつくる。毎時間キャリアポイントを定めた授業づくりを行うことで、生徒が単元のねらいを達成し、自立につながる力を身に付けることができると考える。

(3) 「積み上げシート」と「共有シート」とは

キャリアポイントを定める手立てとするシートである。

積み上げシートは、生活単元学習での一人一人の学習成果をキャリア教育の視点を取り入れて整理し、積み上げることで、特性やよさを可視化して自立に関わる実態を明らかにすることを旨とするシートである。

共有シートは、積み上げシートで明らかにした一人一人の実態を基に、授業の中にキャリアポイントを定め、自立に向けて育てたい力と支援を設定して、単元のねらいの達成を目指すシートである。単元構想において、生徒が自分で考えたり選択したりする活動を設定して生徒が自己決定する機会をつくり、一単位時間の授業構想において、キャリアポイントを定め、自立に向けて育てたい力と支援を設定して生徒が自分の特性やよさを発揮しながら活動する場面をつくる。

二つのシートを活用することで、生徒が必要な支援を受けて主体的に活動し、単元のねらいを達

成して自立につながる力を身に付けることができる授業を目指す。

(4) 育てたい力と発達の方向性とは

育てたい力とは、本研究においてキャリア教育で用いられている基礎的・汎用的能力を基に、授業に表れる力として整理した7つの力（伝えようとする力、関わろうとする力、好きなこと・得意なことを生かそうとする力、苦手なことに対処しようとする力、計画・立案・実行しようとする力、情報を収集・活用しようとする力、学ぶことの意義や役割を理解する力）である。

発達の方向性とは、本研究において「発達障害・知的障害のある児童生徒の自己理解の支援の段階（小島道生）」を基に定めた5つの発達の方向性（①教師の支援を受けて、②自分から進んで、③役割を意識して、④他者を意識して、⑤将来を意識して）である（図1）。①から②と進み、③以降は順番ではなく発達の方向性が変わると考える。

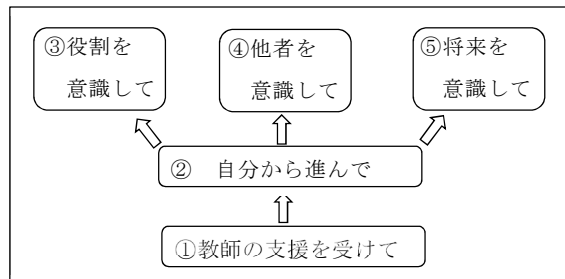


図1 5つの発達の方向性

育てたい力と発達の方向性を組み合わせて考える

することで、実態把握においては、生徒の発揮した力を整理して実態を明らかにし、授業づくりにおいては、より生徒の実態に応じたねらいや支援の設定につなげることを目指す。図2は、育てたい力と発達の方向性の組み合わせを設定する際に、参考となるように組み合わせごとの目指す姿を整理したものである。『キャリアプランニング・マトリックス（試案）及び観点解説（2010）国立特別支援教育総合研究所』『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』を参考に整理した。例えば授業づくりにおいて、教師の支援を受けて伝えようとする力（A1）を育てたいと考える場合は双方向のコミュニケーションの成立を目指す、ことが目指す姿となる。育てたい力と発達の方向性を組み合わせて考えることで、実態差のある生徒に対応することができる。と考える。

		7つの育てたい力						
		人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力
		A 伝えようとする力	B 関わろうとする力	C 好きなこと・得意なことを生かそうとする力	D 苦手なことに対処しようとする力	E 計画・立案・実行しようとする力	F 情報を収集・活用しようとする力	G 学ぶことの意義や役割を理解する力
5つの発達の方向性	⑤将来を意識して	A5 状況に応じて伝えることを目指す	B5 きまりを理解して関わることを目指す	C5 長所を生かしたり伸ばしたりすることを目指す	D5 苦手なことが分かり、対処できることを目指す	E5 将来を意識して目標を設定し実行することを目指す	F5 自分に合った情報処理ツールが分かることを目指す	G5 学習や仕事の意義を理解することを目指す
	④他者を意識して	A4 他者に伝えることを目指す	B4 他者と協力することを目指す	C4 他者の役に立っていることに気付くことを目指す	D4 他者の役に立っていることに気付くことを目指す	E4 他者の喜ぶ姿をイメージして計画することを目指す	F4 家族や身近な人に興味をもち調べることを目指す	G4 他者に喜ばれることで活動の意義に気付くことを目指す
	③役割を意識して	A3 役割を意識して伝えることを目指す	B3 役割を意識して関わることを目指す	C3 役割を果たせたことやできたことに気付くことを目指す	D3 役割を果たせるように、選択肢から選ぶことを目指す	E3 役割を意識して実行することを目指す	F3 必要な情報を収集することを目指す	G3 役割やライフステージに気付くことを目指す
	②自分から進んで	A2 自分から考えや気持ちを伝えることを目指す	B2 自分から教師や友達と関わることを目指す	C2 自分の好きなこと・得意なことに気付くことを目指す	D2 自分の苦手なことに気付き、伝えることを目指す	E2 自分で頑張ることを決めることを目指す	F2 自分から本や図鑑、パソコンなどで調べようとする	G2 自分で目標を決めて活動することを目指す
	①教師の支援を受けて	A1 双方向のコミュニケーションの成立を目指す	B1 教師の働き掛けを受け止め、それに応えることを目指す	C1 教師と一緒にいろいろな活動に取り組むことを目指す	D1 感覚の過敏さや快、不快の感情に気付くことを目指す	E1 教師と一緒に簡単な課題に取り組むことを目指す	F1 様々な活動に興味・関心をもつことを目指す	G1 教師と一緒に目標を決めて活動することを目指す

図2 育てたい力と発達の方向性の組み合わせごとの目指す姿

2 手立ての説明

積み上げシートと共有シートを活用した、キャリアポイントを決める生活単元学習の授業づくりの手順は表1のとおりである。

表1 積み上げシートと共有シートを活用して、キャリアポイントを決める授業づくりの手順

実態把握 (個別の指導計画と併せて) ・生活課題や興味・関心、各教科等の実態を把握する	積み上げシート ・キャリア教育の視点で自立に関わる実態を明らかにする
単元構想 (個別の指導計画、年間指導計画と併せて) ・単元目標、活動を設定する	共有シート ・自分で考えたり選択したりする活動を設定する
授業構想 (個別の指導計画と併せて) ・実態を基に、個別の目標や支援を設定する	・キャリアポイントを決める ・育てたい力と支援を設定して共有する
授業 ・主体的な活動を促し、ねらいを達成できるように支援する	・自立につながる力を育てる支援をする ・活動の中で見られたよい姿を称賛する
振り返り (個別の指導計画と併せて) ・次の学習につなげる	・次の学習につなげる ・学習成果を基礎的・汎用的能力に沿って積み上げる

(1) 手立て①「積み上げシート」

積み上げシートは、生活単元学習での学習成果を基礎的・汎用的能力を基にした7つの育てたい力と5つの発達の方向性を組み合わせて積み上げ、一人一人の自立に関わる実態を明らかにすることを旨とするシートである。実態把握と次の学習につなげる際に個別の指導計画と併せて活用する。

「積み上げシート」							名前
＜基礎的・汎用的能力＞～社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力～							
視点1	【人間関係形成・社会形成能力】		【自己理解・自己管理能力】		【課題対応能力】		【キャリア・ラング能力】
	伝えようとする力	関わろうとする力	好きなこと・得意なことを生かそうとする力	苦手なことに対処しようとする力	計画・立案・実行しようとする力	情報を収集・活用しようとする力	学ぶことの意義や役割を理解する力
視点2	(キーワード) 意思表示 「グッドエリア」 挨拶 場に応じた言動	(キーワード) 人との関わり、他者理解 集団参加 協力・共同	(キーワード) 自己理解 自己選択	(キーワード) 自己理解 自己管理	(キーワード) 目標設定 実行力 振り返り	(キーワード) 情報の収集・活用 自己選択	(キーワード) 学ぶこと・働くことの意義 役割の理解 将来設計、夢や希望
発達の方向性	⑤将来を意識して ④他者を意識して ③役割を意識して ②自分から進んで ①教師の支援を受けて	<②自分から進んで> 「新入生歓迎会をしよう」 新入生に向けて、作業班の活動内容について自分で考えてその場で発表できた。	<③役割を意識して> 「校内歩行をしよう」 調子のよい時にはリーダーに立候補しクラスの友達に声を掛けながら歩行練習ができた。	<②自分から進んで> 「新入生歓迎会をしよう」 歓迎会で行くクイズを自分で考えて出題できた。	⑤長所を生かしたり伸ばしたりすることを目指す ④他者の役に立っていることに気付くことを目指す ③役割を果たせたことやできたことに気付くことを目指す ②自分の好きなこと・得意なことに気付くことを目指す ①教師と一緒にいろいろな活動に取り組むことを目指す	<②自分から進んで> 「お楽しみ会をしよう」 屋台準備係りとして屋台に飾りを付けることができた。	<②自分から進んで> 「畑に行こう」 「畑に行こう」 野菜などのクイズに、挙手、発言的確に当たった。自分の知る知識を伝えることができた。

図3 一学期の学習成果を記入した積み上げシート例と入力画面に示したメモの一部

実態把握においては、積み上げシートを活用して、生徒が既習の生活単元学習の中でどのような力を、どのように発揮したのかを分析することで、生徒の特性やよき、発達の方向性等自立に関わる力を把握する。図3の生徒の場合は、自分から進んで好きなこと・得意なことを生かしたり、学ぶことの意義や役割を理解したりして活動できたことや集団に向けて発信できたことを把握できる。発達の方向性の積み上げ(図4)から、色々な活動で、自分から進んで考えたり選択したりしていたことや役割への意識が芽生え始めていることを大まかに把握できる。明らかにした実態を、次の学習に役立てることで、実態に応じ

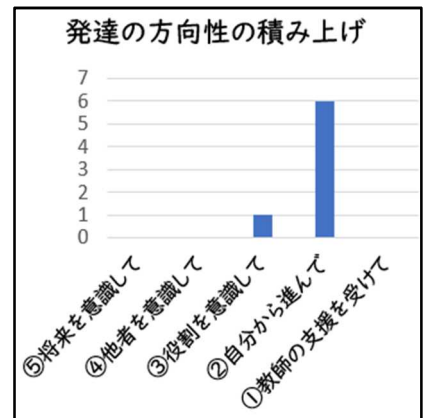


図4 発達の方向性の積み上げ

た単元設定やねらい、支援の設定につなげることを目指す。

単元を振り返り、次の学習につなげる際は、各単位時間のキャリアポイントを中心に振り返り、単元の学習で発揮した力の一番下の空欄に、発達の方向性と単元名、単元での学習成果とよい姿を記入する。発達の方向性に沿って、生徒の変容を見取れるようにするために、教師が行った支援や生徒が果たした役割、具体的な活動が分かるように記す(図5)。

Figure 5 shows a grid of learning units. Two callouts are present:

- 【5つの発達の方向性】** (5 Directions of Development):
 - ⑤ 将来を意識して
 - ④ 他者を意識して
 - ③ 役割を意識して
 - ② 自分から進んで
 - ① 教師の支援を受けて
- 【7つの育てたい力】** (7 Powers to be Cultivated):
 - ・ 伝えようとする力
 - ・ 関わろうとする力
 - ・ 好きなこと・得意なことを生かそうとする力
 - ・ 苦手なことに対処しようとする力
 - ・ 計画・立案・実行しようとする力
 - ・ 情報を収集しようとする力
 - ・ 学ぶことの意義や役割を理解する力

図5 積み上げシートを活用して次の学習につなげる記入例

(2) 手立て②「共有シート」

共有シートは、一人一人の実態を基に、キャリアポイントを定め、育てたい力と支援を設定して指導者間で共有するシートである。単元構想と授業構想・授業、振り返りで、個別の指導計画や年間指導計画と併せて活用する。

単元構想においては、積み上げシートと個別の指導計画とを併せて把握した実態を基に、単元目標や主な活動等を設定する。その中で、生徒が自分で考えたり、選択したりする活動を設定し、自己決定する機会をつくり、主体的な活動を促せるようにする(図6-①)。

一単位時間の授業構想においては、実態を基にキャリアポイントを定め、授業のねらいを明確にする(図6-②)。定めたキャリアポイントにおいて、育てたい力と発達の方向性を決め、その組み合わせをシートに入力することで(図6-③)、目指す方向性と支援が自動で表示され(図6-④)、それらを参考に実態に応じた支援を設定し、指導者間で共有して生徒と関わることで、生徒が自分の特性やよさを発揮する場面をつくり、生活単元学習のねらいを達成して自立につながる力を身に付けられるようにする。

単元の振り返りにおいては、各単位時間のキャリアポイントを中心に振り返り、単元での学習成果とよい姿を積み上げシートに記入し、次の学習につなげる。

①自分で考えたり、選択したりする活動を取り入れ、主体的な活動を促す。

②キャリアポイントを定め、授業のねらいを明確にする。

③キャリアポイントにおいて、育てたい力と発達の方向性の組み合わせを、入力画面に示される図(前ページ図2)から選択する。組み合わせを選択したセルの左上の記号を入力する。

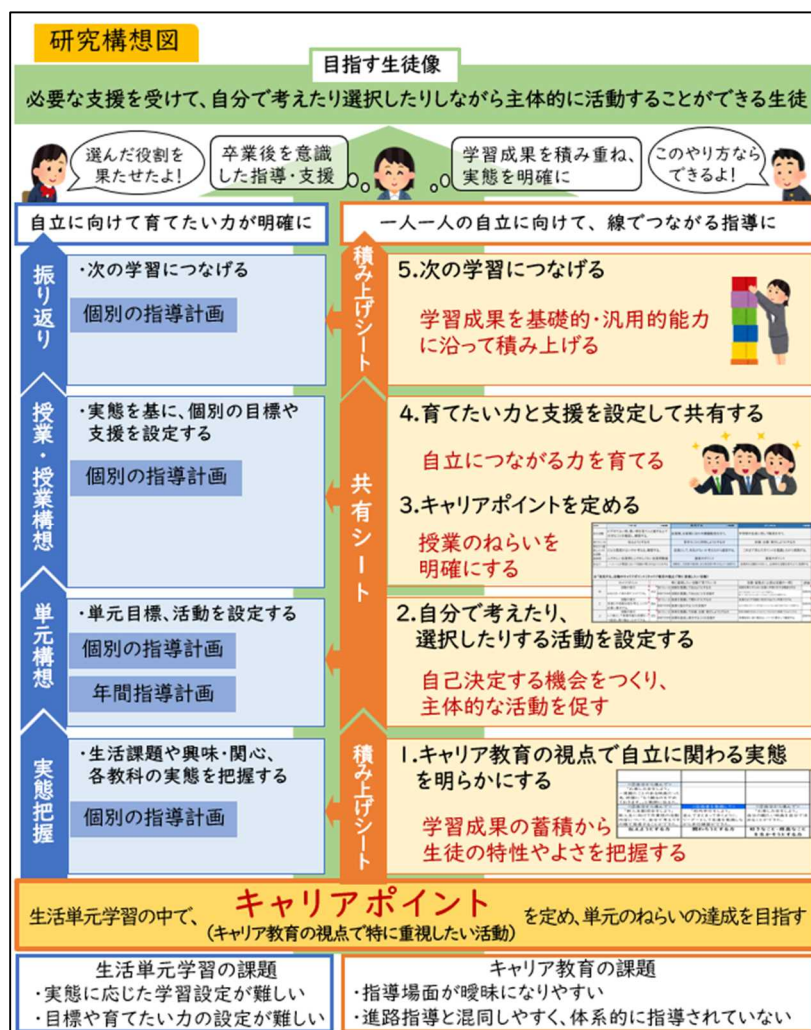
④育てたい力と目指す方向性、支援の一例が自動で表示される。

「○○ショップの店員になり、製品の販売をしよう」		I組	
<単元目標> 人と接する上で大切な態度を理解して製品販売を行うことができる。			
<主な活動・目標>			
過程	つかむ	1時間	追及する
主な活動	ビデオでよい例、悪い例を見て人と接する上で大切なことを確認し、練習する。	1時間	追及する
育てたい力	伝えようとする力	1時間	追及する
考えた力	どんな態度がよいのか考える、練習する。	1時間	追及する
選択した力	ふさわしい店員例とふさわしくない店員例動画	1時間	追及する
具体的活動	接客のポイント	1時間	追及する
手立て	一人一人が集団において役割が得られるよう工夫する	1時間	追及する
★「追及する」活動のキャリアポイント(キャリア教育の視点で特に重視したい活動)			
	キャリアポイント	特に重視したい活動で育てたい力	支援・留意点(上段は支援の一例)
H	活動の実行 お礼を言って袋を渡すことができる。	A3 育てたい力 役割を意識して伝えようとする力 目指す方向性 役割を意識して伝えることを目指す	役割を果たすために友達に声掛けをする場面を作る 途中で袋を渡すことができてお礼を言えるように練習する。 お礼を言おうとしたいことを伝えて、お礼を言えるように練習する。
I	活動の実行 友達との役割分担を考え、レジの計算に集中する。	B4 育てたい力 他者を意識して関わろうとする力 目指す方向性 他者と協力することを旨とする	友達の様子や役割に気付けるように声掛けをする 自分の役割以外のことに取り組もうとしたときは、友達に役割があることを確認する。
J	活動の実行 レジ係として実現可能な目標を一人設定し取り組むことができる。	E5 育てたい力 将来を意識して計画・立案・実行しようとする力 目指す方向性 目標を設定し実行することを目指す	将来の進路や生活にどのようにつながるかを意識できるようにする 目標設定に迷う場合は、いくつか提示して確認する。
			評価
			◎80%
			◎80%
			◎80%

図6 授業実践において作成された共有シート

共有シートの作成時間を短縮し、一人一人の実態に応じた支援を設定する手掛かりにできるよう、育てたい力と発達の方向性の組み合わせを3ページ図2から選び、選んだセルの左上の記号を入力すると、育てたい力と目指す方向性、支援の一例が自動で表示されるようにした。

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

協力校において、授業実践に関わる教師に、積み上げシートを活用して、生徒の生活単元学習の学習成果を積み上げることと、共有シートを活用して、積み上げシートで明らかにした実態を基に授業づくりを行うことを依頼した。実践Aにおいては、積み上げシートと共有シートを活用した授業づくりを行いながら、授業実践に関わる教師から二つのシートの有効性と課題を聞き取り、改良につながった。実践B、Cにおいては、改良したシートを活用した授業づくりを依頼し、生徒が主体的に活動して生活単元学習のねらいを達成し、自立につながる力を身に付けることができたか検証した。

(1) 生活単元学習の授業づくりについてのアンケート

日時	対象	方法
7月14日(水) ～ 7月20日(火)	研究協力校中学部教師13名	・生活単元学習の授業の現状と教師の意識を調査するアンケートを実施し、生活単元学習における課題を見付ける

(2) 授業実践

対象	実践A 研究協力校 中学部3年 11名
単元名	「かっこいい3年生を意識してクラスで活動しよう」～修学旅行に向けて～
評価規準	修学旅行に向けて、自分の役割を理解して行動しようとするができる
実践日時	令和3年9月16日、24日、10月1日
内容	<ul style="list-style-type: none">・積み上げシートを活用し、一学期の生活単元学習の学習成果を積み上げる・共有シートを活用して、自分で考えたり選択したりする活動の設定を行う

対象	実践B 研究協力校 中学部2年 4名
単元名	「手洗い博士になろう」～自分で作った石けんできれいに手を洗おう～
評価規準	手洗いの大切さを理解し、学習したことを伝えようとするができる
実践日時	令和3年10月19日、20日、11月5日、10日
内容	<ul style="list-style-type: none">・積み上げシートを活用し、一学期の生活単元学習の学習成果を積み上げる・改良した共有シートを活用して、自分で考えたり選択したりする活動の設定とキャリアポイントの設定を行う・育てたい力と発達の方向性の組み合わせに応じて、目指す方向性と支援を例示する・積み上げシートと共有シートを活用した授業で、自立につながる力を育む

対象	実践C 研究協力校 中学部3年 11名
単元名	「〇〇ショップの店員になり、製品の販売をしよう」
評価規準	店員としてのよい姿を考え、自分の役割を果たそうとするができる
実践日時	令和3年11月8日、12日、26日
内容	<ul style="list-style-type: none">・改良した共有シートを活用して、自分で考えたり選択したりする活動の設定とキャリアポイントの設定を行う・育てたい力と発達の方向性の組み合わせに応じて、目指す方向性と支援を例示する・積み上げシートと共有シートを活用した授業で、自立につながる力を育む

(3) 授業実践後の聞き取り

日時	対象	方法
実践終了後	授業実践を行った教師	<ul style="list-style-type: none">・積み上げシートと共有シートの有効性と課題を聞き取り、シートを改良する

2 検証計画

検証項目	検証の方法	検証の観点
積み上げシートを活用した授業づくりの有効性と課題	<ul style="list-style-type: none">・教師がシートを活用して授業づくりをする様子を観察し、改善点を聞き取る	<ul style="list-style-type: none">・自立に関わる実態を明らかにできたか・指導者間で一人一人の生徒の実態や必要な支援を共有できる話合いが行われたか
共有シートを活用した授業づくりの有効性と課題	<ul style="list-style-type: none">・教師がシートを活用して授業づくりをする様子を観察し、改善点を聞き取る	<ul style="list-style-type: none">・自分で考えたり選択したりする活動の設定をすることと、キャリアポイントを定め、育てたい力と支援を設定することで生徒が必要な支援を受けて、主体的に活動することにつながったか

3 実践

(1) 生活単元学習の授業づくりについてのアンケート

協力校中学部教師13名に、生活単元学習の授業の現状と教師の意識を調査するアンケートを実施した。アンケートの結果から、以下のような生活単元学習の課題が挙げられ、課題を解決するために、一人一人の実態をより明らかにすることを旨とする積み上げシートと、実態を基に授業につながる共有シートの作成を行った。

生活単元学習の課題	課題を解決するために
・授業の中で、前単元の学習を生かしきれていない ・生徒一人一人の実態差への対応が難しい	⇒一人一人の学習成果を積み上げて実態を把握する
・個々の実態に応じた学習設定が難しい ・授業の中で生徒が活動を選択する機会をつくりたい	⇒実態を生かして学習を組み立て、活動を設定する
・目的や目標、育てたい力の設定が難しい ・様々な活動を取り入れることができる反面、付けさせたい力がぶれてしまうことがある	⇒自立を目指すキャリア教育の視点を取り入れ、基礎的・汎用的能力を基に育てたい力を設定する

(2) 授業実践

① 実践Aの実践と考察

協力校での授業実践に関わる教師に、積み上げシートと共有シートを活用した授業づくりを依頼し、シートの有効性と課題を検証した。

ア 積み上げシートの活用

担任、副担任を中心に、積み上げシートを活用して、生徒の生活単元学習での学習成果を、育てたい力と発達の方向性を組み合わせた項目に沿って整理し、積み上げることを依頼した。その中で協力校の教師の感想を基に、シートの有効性と課題について以下の点が挙げられた。

有効性

- ・7つの育てたい力が示されることで、今まであまり意識していなかった力を意識できた。
- ・育てたい力で整理することで、同じ活動でも、生徒によって異なる力を発揮していたことに気付いた。「学級目標を決めよう」の単元でシールアートの活動をしたが、生徒A、Cは主に好きなこと・得意なことを生かそうとする力を発揮し、生徒Bは、主に伝えようとする力を発揮したと整理できた(図7)。
- ・生徒Bが、同じ発達の方向性で力を発揮していることに気付いた。生徒の発達段階の大まかな傾向を把握できた。生徒Aは、教師の支援を受けて活動することが多いが、好きなこと・得意なことを生かした活動では、自分から進んで取り組めた。生徒Bは、色々な活動で自分から進んで考えたり選択したりすることを積み重ねていた。生徒Cは、自分から進んで集団に働き掛け、集団の中でリーダーの役割を意識した姿がみられた(図7)。

		<②自分から進んで> 「植物を育てよう」 自ら進んで、時間いっぱい草むしりを行うことができた。
<①教師の支援を受けて> 「お楽しみ会をしよう」 教師の提示した絵を見て、観たい映画を指差して選ぶことができた。		<①教師の支援を受けて> 「学級目標を決めよう」 学級目標を作成する中で、得意なシールアートで飾り付けすることができた。
伝えようとする力	関わろうとする力	好きなこと・得意なことを生かそうとする力
生徒Aの積み上げシートより抜粋		
	<②自分から進んで> 「校内歩行をしよう」 クラスの友達と一緒にまとまって歩行練習ができた。	
<②自分から進んで> 「学級目標を決めよう」 学級目標を掲げた模造紙に、自分でシールアートの文字を作り、飾り付けることができた。	<②自分から進んで> 「新入生歓迎会をしよう」 教員の指示がなくても、インタビュー対象の近くへ行って、マイクを近づけることができた。	<②自分から進んで> 「お楽しみ会をしよう」 自分の観たい映画を自分で決めて選ぶことができた。
伝えようとする力	関わろうとする力	好きなこと・得意なことを生かそうとする力
生徒Bの積み上げシートより抜粋		
		<②自分から進んで> 「学級目標を決めよう」 学級目標を掲げた模造紙に、オリジナルのシールアートを作り飾り付けをすることができた。
<②自分から進んで> 「新入生歓迎会をしよう」 新入生に向けて作業班の活動内容について、自分で考えてその場で発表することができた。	<③役割を意識して> 「校内歩行をしよう」 調子のよい時には、リーダーに立候補しクラスの友達に声を掛けながら歩行練習ができた。	<②自分から進んで> 「新入生歓迎会をしよう」 歓迎会で行うクイズを自分で考えて出題することができた。
伝えようとする力	関わろうとする力	好きなこと・得意なことを生かそうとする力
生徒Cの積み上げシートより抜粋		

図7 生徒A、B、Cの積み上げシートより抜粋

- ・積み上げシートに整理する過程で、生徒が発揮した力や有効な支援を指導者間で共有できた。

課題

- ・整理する際に、どの力に当てはまるのか迷うことがあった。
- ・同じ発達の方向性が続いたときに、生徒の成長や変容が見取れるように記述できるとよい。



イ 共有シートの活用

積み上げシートと個別の指導計画を基に、共有シートを活用して、自分で考えたり選択したりする活動の設定をした単元構想を行い、個々の単元目標や支援の設定をすることを依頼した。

有効性

- ・生徒が自分で考えたり、選択したりするためにどのような支援が必要かをよく考えた（表2）。
- ・育てたい力と発達の方向性を考えることで、支援を設定する参考となった。また、授業のねらいを達成できるように写真カードを準備するなど支援の方法をよく考えることにつながった。

表2 実践Aで行われた自分で考えたり選択したりする活動における教師の支援と生徒の様子

	自分で考えたり選択したりする活動	授業の中で行われた教師の支援	生徒の様子 (.....生徒の主体的な活動)
第1時	自分の役割を選択する。 ・リーダー ・地図係 ・時間係 ・写真係	<ul style="list-style-type: none"> ・役割の理解を促すために、役割を果たしている動画と役割を果たしていない動画の提示、使用する道具の提示で支援 ・自分の希望する役割を伝えるために、イラストと写真の提示で支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見て、役割において<u>よい行動とよくない行動に気づき、発言できた。</u> ・発語のない生徒が、役割のイラストを<u>何度も指差すことで自分の希望を伝えた。</u>
第2時	自分の役割を確認し、実行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割の理解を深めるために、役割ごとにイラストや使用する道具を用いて仕事内容を確認する支援 ・実態に応じた役割を設定する支援 <p>(例) 地図係の実態に応じた役割の設定</p> <p>生徒E 校舎内地図で行き先を確認</p>  <p>生徒I 2枚の写真から行き先を選択</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に何をするか、どのように道具を使うかを理解できた。 ・自分で<u>役割を果たせることが分かり「やってみよう」という意欲につながった。</u> <p>生徒E・・・「今ここにいる目的地はここだから、右に行けばいいね」</p> <p>生徒I・・・2枚の写真から指差しで目的地を選ぶことで行き先を決めて伝えた。</p>
第3時	前時の活動を振り返り、目標を考え実行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割ごとに、前時でよくできたことを確認して称賛する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・褒められることで目標の達成に気づき自信をもてた。

課題

- ・単元構想の段階では、生徒の役割が決まっていないため具体的な目標や支援の設定が難しい。
- ・作成に時間がかかった。

ウ 考察

積み上げシートを活用することで、生徒の学習成果を蓄積し、「～の活動では、自分から進んで活動できた」という特性やよさ、「色々な活動で自分から進んで考えたり選択したりすることを積み重ねていた」「自分から進んで集団に働き掛け、集団の中でリーダーの役割を意識して活動する姿が見られた」など生徒の大まかな傾向を把握できた。また「作成に時間がかかった」との課題から育てたい力と発達の方向性の組み合わせごとの目指す姿を提示し、当てはめる力で迷ったときに参考にできるように改良した。さらに、同じ発達の方向性が続く中での変容を見取るために、教師

の支援や生徒が果たした役割、中心となる活動が個の活動か集団での活動か、などが分かるように記すことが重要であると考えた。

共有シートを活用して設定した、自分で考えたり選択したりする活動において、教師が実態に応じた支援の工夫を行うことで、それぞれの生徒が自分の言葉で発言したり、自分のもつ力を生かして役割を果たしたりすることができた。授業の中で、生徒が主体的に活動しながら目標を達成することを積み重ねていくことは、生徒の自信となり「やってみよう」という意欲につながると考えられる。指導者は、生徒が主体的に活動できるように支援を探ることで、一人一人の生徒を見つめ、実態に応じた課題や支援の設定につなげることができると考えられる。また課題から、単元構想においては自分で考えたり選択したりする活動などを単元全体で大まかに設定し、生徒の役割が具体的に授業構想において、ポイントを定めて育てたい力と支援を設定するように改良した。更に作成時間を短縮できるよう記入する項目の精選を行い、一人一人の支援を設定する際の参考となるように、目指す姿と支援の一例が自動で表示されるように改良した。

② 実践Bの実践と考察

協力校での授業実践に関わる教師に、積み上げシートの作成と、実践Aを経て改良した共有シートを活用した授業づくりを依頼し、二つのシートの有効性と課題を検証した。

A 積み上げシートの活用

担任、副担任を中心に、生徒の生活単元学習での学習成果を、単元ごとに育てたい力と発達の方向性を組み合わせた項目に沿って整理し、積み上げることを依頼した。積み上げシートで把握した生徒の実態を基に、単元構想に生かしたい実態を以下のように整理できた。

生徒	積み上げシートで把握した生徒の実態の大まかな傾向	単元構想に生かしたい実態
D	教師の支援を受けて活動することを中心に、好きな絵を描く活動では、自分から進んで活動できた。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒D、Gの好きな絵を描いたり工作をしたりする活動を取り入れることで主体的な活動を促す。 生徒Eが見通しをもてるように支援を行い、主体的な活動を促す。 生徒Fのよさを生かせるよう、学習したことを他者に伝える機会や役割をもたせた活動を設定する。
E	教師の支援を受けて活動することを中心に、見通しをもつことで自分から進んで活動できた。	
F	自分から進んで伝えようとしたり関わろうとしたりする姿が見られた。役割を意識した行動が見られた。	
G	教師の支援を受けて活動することを中心に、好きな工作の活動では、自分から進んで活動できた。	

イ 共有シートの活用

実践Aを経て改良した共有シートを活用して、単元構想において自分で考えたり選択したりする活動の設定と、一単位時間の授業構想においてキャリアポイントを定め、育てたい力と支援の設定を依頼した。実態を基に、手洗いの重要性を理解して実践するという課題達成に向けて石けんを作る活動や手洗い博士になり手洗いの大切さを伝える役割を設定した（図8）。

「手洗い博士になろう～自分で作った石けんを手洗いしよう～」		I組		
<単元目標> 石けんを使った手洗いの重要性について理解することができる。 調べたことを意識して、手を洗うことができる。 手洗い博士として友達や家族に手洗いの重要性について伝えることができる。		知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	
<主な活動・目標>		思考・判断・表現		
過程	つかむ	1時間	3時間	
主な活動	自分の石けんを作り、手洗いに對する意欲を高める。	自分で作った石けんを手洗いで意欲を高め、周りの人のために石けんを作る。	石けんを使った手洗いの重要性を相手に伝え、石けんを贈る。	
主な目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
考えたり選択したりする活動	好きな石けんの形や石けん置ききのデザインを選ぶ。	贈る相手を考えてデザインを選ぶ。	伝えたいことを選ぶ。	
具体的例	石けんの完成形を提示する。	贈る相手の写真	カードの内容	
手立て	見通しをもって主体的に行動できるよう学習環境を工夫する	目的が達成しやすいように、段階的な指導を行う	活動後に、充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導する	
☆「つかむ」活動のキャリアポイント（生徒の自立につなげる、特に重視したい活動をキャリア教育の視点を取り入れて支援しよう！）				
	キャリアポイント	特に重視したい活動で育てたい力	支援・留意点（上段は支援の一例）	評価
D	活動の実行 好きな形で石けんを作る	育てたい力 目指す方向性 C1 教師の支援を受けて好きなこと・得意なことを生かそうとする力 教師と一緒にいるいろいろな活動に取り組むことを目指す	得意なことを生かした働きかけをして興味を引き出す さまざまな形を提示する。	◎80%
E	活動の見通し 活動の流れが分かる	育てたい力 目指す方向性 F3 役割を意識して情報を収集・活用しようとする力 必要な情報を収集することを目指す	必要な情報を取り出す経験を重ねられるようにする 具体的な数を提示する。	◎80%
F	活動の実行 作り方を説明する	育てたい力 目指す方向性 E1 教師の支援を受けて計画・立案・実行しようとする力 教師と一緒に簡単な課題に取り組むことを目指す	頑張ったことやできたことを教師と一緒に確認し、共に喜ぶ 話のあとに質問して確認する。	◎80%
G	活動の実行 手元を見る	育てたい力 目指す方向性 E1 教師の支援を受けて計画・立案・実行しようとする力 教師と一緒に簡単な課題に取り組むことを目指す	頑張ったことやできたことを教師と一緒に確認し、共に喜ぶ 手元を見て作ることができたとき称賛する。	◎80%

図8 「手洗い博士になろう」で作成された共有シート

授業において、生徒E、Gのキャリアポイントにおける姿は、表3のとおりであった。生徒Eは積み上げシートから、見通しをもつことで自分から進んで活動できたことを把握し、石けんづくりの活動において「活動の流れが分かる」ことをキャリアポイントとして定めた。石けんを作るために必要な情報を取り出す力を育てたいと考え〇回振る、線まで水を入れるなどと具体的な数を提示する支援を行ったことで、見通しをもち自分から石けんを作ろうとする姿が見られた。生徒Gは、好きなことや得意なこと（工作）を生かすことで自分から進んで活動できたことを把握し、「手元を見る」ことをキャリアポイントとして定め、好きな制作の活動である石けんを作るという活動の中で手元を見る必要のある場面を取り入れた。手元を見ることができたときに称賛する支援を行ったことで、より手元に集中しようとする姿が見られた。

表3 キャリアポイントにおける生徒E、Gの姿

キャリアポイントにおける生徒の姿	
E	教師が石けんづくりの手順を示す中で、〇回振る、線まで水を入れるなど、具体的な数を意識して数えたり、目印に着目したりして作成する姿が見られた。
G	漏斗を使って入れる、線まで入れるなど手元を見る必要がある活動の中で、手元を見て制作したことを教師が称賛することで、より手元に集中しようとする姿が見られた。

ウ 考察

積み上げシートから生徒の実態の大まかな傾向や特性、よさを把握し、生徒の主体的な活動を引き出す活動や取り入れたい課題を整理できた。把握した生徒の実態を単元構想に生かすことで、実態に合った単元や授業設定につながられた。

共有シートで設定したキャリアポイントにおける授業後の教師の評価では、単元を通して、ほとんどのキャリアポイントにおいて80%以上達成できた、と評価された。授業の中でキャリアポイントを定め、育てたい力と支援の設定を行うことで80%以上の達成につながり、生活単元学習の単元目標を達成し、自立につながる力を身に付けることができた。生徒一人のキャリアポイントにおいて60%達成であったという評価が一度あったが、授業後の指導者からの聞き取りの中で、「こういう支援をしていれば、生徒の意欲を生かして、80%以上達成することができた」という指導者の支援を見直す機会となっていた。共有シートを活用した授業づくりに関わった教師からは、「キャリアポイントを定めることで、生徒をより見つけ、生徒の実態と将来を考え、どう学ばせていくか、という指導方法を考えるようになり、クラス全体の活動の設定や支援につながった」「シートを使い始めたときは少し時間がかかったが、次第に手順が分かると、単元を見通してこの生徒は今こんな力を引き出したいと考えられた」という意見が挙げられた。キャリアポイントを定めることで、教師の授業のねらいが明確になり、生徒の実態に応じた支援で主体的な活動を引き出し、生活単元学習のねらいを達成すると共に、生徒の自立につながる力を育てることができたと考えられる。

③ 実践Cの実践と考察

協力校で実践Aを行った教師に、改良した共有シートを活用した生活単元学習の授業づくりを依頼し、二つのシートの有効性と課題を検証した。

ア 積み上げシートの活用

実践Aで作成した積み上げシートを活用し、把握した生徒の実態を生かして、共有シートで単元構想、授業構想をすることを依頼した。

イ 共有シートの活用

実践Aを経て改良した共有シートを活用して、積み上げシートと個別の指導計画を基に自分で考えたり選択したりする活動の設定をした単元構想を行い、キャリアポイントを定め、育てたい力と支援を設定した授業構想をすることを依頼した。校内での作業製品販売会において、店員になり製品の販売をするという課題達成に向けて、ふさわしい店員の姿を考え、仲間と役割分担をしながら自分で目標を立てて練習する活動を設定し、次ページ図9のように共有シートが作成された。

「〇〇ショップの店員になり、製品の販売をしよう」				I組		
＜单元目標＞		人と接する上で大切な態度を理解して製品販売を行うことができる。				
＜主な活動・目標＞						
過程	つかむ	I時間	追究する	I時間	まとめる	I時間
主な活動	動画でよい例、悪い例を見て人と接する上で大切なことを確認し、練習する。		店員側、お客側に分かれ模擬販売を行う。		中学部の生徒に対して販売を行う。	
育てたい力	伝えようとする力		苦手なことに対処しようとする力		計画・立案・実行しようとする力	
考えたり選択したりする活動	店員として、どんな態度がよいのか考える		自分で目標を決めて接客の練習をする。		これまで学んだポイントを意識しながら実践する。	
具体例	ふざわい店員例とふざわしくない店員例動画		接客のポイント		接客のポイント	
手立て	一人一人が集団において役割が得られるよう工夫する		活動後に、充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導する		自発的な活動を大切に、主体的な活動を促すように指導する	
☆「追究する」活動のキャリアポイント(キャリア教育の視点で特に重視したい活動)						
	キャリアポイント		特に重視したい活動で育てたい力		支援・留意点(上段は支援の一例)	評価
H	活動の実行 商品を袋に入れて、隣の友達に渡すことができる。	G1	育てたい力 教師の支援を受けて学ぶことの意義や役割を理解する力 目指す方向性 教師と一緒に目標を決めて活動することを目指す		何をどのくらい行うか示し、できたと感じられるようにする 教師が手本を示し、模倣できるようにする。	◎80%
I	活動の実行 友達との役割分担を考え、レジの計算に集中する。	B4	育てたい力 他者を意識して関わろうとする力 目指す方向性 他者と協力することを目指す		友達のよさや役割に気付けるように声掛けをする 自分の役割以外のことに取り組もうとしたときは、友達の役割であることを確認する。	◎80%
J	活動の実行 レジ係として実現可能な目標を一つ設定し取り組むことができる。	E5	育てたい力 将来を意識して計画・立案・実行しようとする力 目指す方向性 目標を設定し実行することを目指す		将来の生活とのつながりを意識できるようにする 目標設定に迷う場合は、仕事内容を示して確認する。	◎80%

図9 「〇〇ショップの店員になり、製品の販売をしよう」で作成された共有シート

授業において、生徒H、Jのキャリアポイントにおける姿は、表4のとおりであった。生徒Hは、積み上げシートから教師の支援を受けて活動することが多いが、好きなことを生かした活動で自分から活動できたことを把握し、商品を袋に入れて、隣の友達に渡すことをキャリアポイントとして定めた。教師の支援を受けて、役割を理解する力を育てたいと考え、教師が手本を示し、模倣できるように支援を行うことで、次第に教師の支援がなくても自分で商品を袋に入れることができた。生徒Jは積み上げシートから、自分から進んで活動でき、役割への意識が芽生え始めていることを把握し、レジ係の活動において目標を決めて取り組むことをキャリアポイントとして定めた。将来を意識して実行しようとする力を育てたいと考え、仕事内容を示し確認する支援を行うことで自分で目標を決めて達成できるように取り組む姿が見られた。

ウ 考察

共有シートで設定したキャリアポイントにおける授業後の教師の評価は、全てのキャリアポイントにおいて80%以上達成できた、と評価された。このことから、授業の中でキャリアポイントを定めて育てたい力と支援の設定を行うことで、80%以上の達成につながり、生活単元学習の单元目標を達成し、自立につながる力を身に付けることができた。共有シートを活用した授業づくりに関わった教師からは、「キャリアポイントを定めることで、授業のポイントを絞ることができた」「生徒の将来を考えて目標を設定し、指導が点から線になったと感じた」「手立てをより考えるようになった」「指導者間で目指すゴールや方向性を確認できた」「指導者全員の意見を合わせた授業づくりができた」という意見が挙げられた。キャリアポイントを定めることで、教師の授業のねらいが明確になり、実態に応じた支援を設定して生徒一人一人の自立に向けて線につながる指導を積み重ねていくことができたと考えられる。また、指導者間で生徒の育てたい力や支援を共有したり、生徒の力を引き出す支援の工夫を結集したりすることで、より生徒が主体的に活動できる授業をつくることができたと考えられる。課題として、授業づくりに時間を要することが挙げられ、短時間

表4 キャリアポイントにおける生徒H、Jの姿

生徒	キャリアポイントにおける生徒の姿
H	教師と一緒に、商品を袋に入れて友達に渡すことを繰り返すことで、自分の役割を理解し次第に教師の支援がなくても、自分から商品を袋に入れることができた。
J	教師から提示されたレジ係の仕事内容の中から「商品の数を間違えないようにする」という目標を自分で決めて、商品を丁寧に確認しながら正確に計算することができた。

で行うやり方として、実態の似ている生徒ごとにキャリアポイントを定めて、育てたい力と支援を設定するなど使い方を工夫することもできるのではないかという意見が挙げられた。シートの使い方を工夫しながら、実態に応じた目標や支援の設定ができるように活用できるとよいと考える。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 積み上げシートを活用して、生活単元学習の学習成果を整理することで、生徒の特性やよさ、発達の方向性等、自立に関わる実態を明らかにできた。
- 積み上げシートで明らかになった実態を基に、共有シートを活用してキャリアポイントを定めることで、授業のねらいを明確にし、実態に応じて支援を設定できた。これにより、生徒が生活単元学習のねらいを達成し、自立につながる力を身に付けることができた。
- 指導者間で、生徒のキャリアポイントとキャリアポイントに関わる育てたい力と支援を共有したり、生徒の力を引き出す支援の工夫を結集したりして授業づくりをすることができた。

2 課題

- 各教科等の指導においても、積み上げシートで明らかにした実態を基に、キャリアポイントを定め、単元のねらいの達成を目指す指導が有効か検討が必要である。
- 積み上げシートと共有シートを活用した授業づくりは、一定の時間を要する。使い方を工夫しながら、一人一人の実態に応じた授業づくりを検討していく必要がある。
- 育てたい力と発達の方向性の組み合わせに応じて設定した、目指す姿と支援の例示について、より分かりやすく、支援の設定の参考となるよう表現や内容の検討が必要である。

VII 提言

- 日々の授業の中にキャリア教育の視点を取り入れ、一人一人の自立に向けて育てたい力と支援を設定して達成を目指す指導を積み重ねていくことで、生徒が主体的に活動し、自立につながる力を身に付けることができると考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示）』
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領（平成29年告示）解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）』
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領（平成29年告示）解説各教科等編（小学部・中学部）』
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領（平成29年告示）解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』
- ・文部科学省 中央教育審議会 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（2011）
- ・群馬県教育委員会 『第2期群馬県特別支援教育推進計画』（2018）
- ・国立特別支援教育総合研究所 編著 『特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック』ジヤース教育新社（2014）
- ・別府哲 監修 小島道生・片岡美華 編著 『発達障害・知的障害のある児童生徒の豊かな自己理解を育むキャリア教育』ジヤース教育新社（2014）
- ・岡山県特別支援学校長会 『岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表』（2013）

<担当指導主事>

町田 直紀 関根 一美